

Nissha Today

Empowering Your Vision



Graphic Controls
A Nissha Company



A Nissha Company



A Nissha Company



第98期 中間報告書

2016年4月1日 - 2016年9月30日

日本写真印刷株式会社

証券コード 7915

社長メッセージ 01

トピックス 04

特集 医療機器分野にも応用される印刷技術
アメリカの医療機器メーカーGraphic Controlsグループを買収 05

業績ハイライト 07

会社概要/株式の状況 09

コミュニケーション 10

社長メッセージ

株主のみなさまには平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り御礼申し上げます。
2017年3月期第2四半期(累計)の実績と今後の見通しについて、
代表取締役社長 兼 最高経営責任者の鈴木順也よりご説明申し上げます。



事業ポートフォリオの組み換えを目指
す3カ年の第5次中期経営計画は折
返し地点。M&A戦略は計画通りに進
捗しています。

鈴木順也

代表取締役社長 兼 最高経営責任者

Q はじめに2017年3月期第2四半期(累計)の実績につ
いて説明してください。

A 円高の進展や製品需要の低迷により、厳し
い事業環境が続きました。

当第2四半期(累計)におけるグローバル経済情勢について
は、アメリカでは個人消費の増加などにより景気の回復が継
続し、欧州では景気は緩やかに回復したものの、イギリスの
EU離脱問題などに伴い、先行きに不透明感が増えています。
中国をはじめとするアジア新興国の景気は一部で持ち直しの

動きもみられたものの、緩やかに減速しました。

このような状況のもと、当社グループにおいては、想定を
上回る円高の進展や製品需要の低迷などの影響により、当
初の業績予想を下回りました。当第2四半期(累計)の売上高
は516億48百万円(前年同期比0.3%増)、利益面では10億
37百万円の営業損失(前年同期は29億31百万円の営業利
益)となりました。

Q 2017年3月期、通期業績の見通しはいかがでしょうか？

A 製品需要が当初の想定を下回る見通しです。一方で、次の成長に向けた準備を加速します。

主力のデバイス事業において、製品需要が当初の想定よりも減少する見通しです。また、直近のM&Aによる一時的な費用の発生や連結業績に与える影響などを踏まえるとともに、2016年11月7日付で第3四半期以降の為替レートの前提を1ドル=110円から1ドル=105円に見直し、通期業績予想を売上高1,200億円、営業利益20億円に修正いたしました。

このように当期の業績は当初の想定を下回る見通しですが、M&A戦略の進捗に加え、主力のデバイス事業においては新たな事業機会が広がる見通しであることから、現在は来期以降の成長に向けた準備を加速させています。

Q 続いて、2015年4月から運用している第5次中期経営計画の進捗を教えてください。

A M&A戦略が進展、次の成長のための事業基盤を獲得・強化しました。

当社は、2015年4月から運用を開始した3カ年の第5次中期経営計画において、事業ポートフォリオ（製品や対象市場の

構成や組み合わせ）の組み換えによる成長を目指しています。現在主力としているスマートフォンやタブレット端末などのコンシューマー・エレクトロニクスの分野では、イノベーションの進展などにより、今後も事業機会が広がる可能性があるものの、製品需要の急激な変動や製品・サービスの低価格化はリスク要因です。こうした状況に対して、当社はバランス経営の観点から、変化の激しいコンシューマー・エレクトロニクス分野への依存から脱却するとともに、為替変動への耐性を確保すべく海外生産比率を高めるなど、持続的かつ安定的に収益を確保することのできる事業基盤の確立を急いでいます。

M&Aは事業ポートフォリオを組み換えるうえで有効な手段のひとつであり、私たちは第5次中期経営計画において3年間で350億円の予算枠を設定するとともに、グローバルベースで安定した成長が期待される分野の研究・調査を進めてきました。昨年8月には、高級ラベルやパッケージ向けの蒸着紙を手がける世界最大手のAR Metallizingグループ（エーアール・メタライジング/ベルギー）を買収・子会社化しました。

当期に入ってからM&A戦略は計画通りに進捗しています。2016年9月2日には、北中米・欧州で事業を展開する医療機器メーカー、Graphic Controlsグループ（グラフィック・コントロールズ/アメリカ）を買収・子会社化しました。当社は、同社をライフイノベーション事業の中核事業会社と位置づけ、医療機器の分野へ本格的に進出を果たしました。

2017年3月期第2四半期（累計）業績のポイント

売上高 

516億円
前年同期比 0.3%増

営業利益 

▲10億円
前年同期は29億円
円高と製品需要の減少が影響

親会社株主に帰属する
四半期純利益 

▲41億円
前年同期は22億円
円高に伴う為替差損が影響

中間配当金

1株当たり15円

さらに、10月31日には産業資材事業が重点市場と定めている自動車の分野で、欧州の成形・加飾フィルムメーカーSchusterグループ（シュスター/ドイツ、Schuster Kunststofftechnik GmbHならびにBack Stickers GmbHおよびその傘下にある関係会社）を買収・子会社化しました。これにより、当社は、同社が保有する優れた加飾技術と欧州自動車メーカーとの強固な顧客基盤を獲得しました。

この間、M&Aによって獲得・強化した「蒸着紙」・「医療機器」・「自動車」の分野は、今後もグローバルベースで安定的に成長することが予想されます。当社では、新たに加わった企業との連携を深めながら事業の成長を加速させ、環境変化の激しいコンシューマー・エレクトロニクス分野とのバランスを保ちつつ、持続的な成長を目指す考えです。

※Graphic Controlsグループの詳細については特集（P.5～6）を、Schusterグループの詳細についてはトピックス（P.4）を、それぞれご覧ください。

Q 配当金について説明してください。

A 中間配当金は15円とさせていただきます。

当社では、利益配分については安定配当の継続を基本方針に、当期および今後の業績、配当性向、財務面での健全性などを総合的に勘案して配分することとしています。

2017年3月期の中間配当は、1株当たり15円とさせていただきます。また、2017年3月期の期末配当についても15円（年間配当金1株当たり30円）とさせていただきます。

なお内部留保金については、現時点では中・長期的観点から企業価値拡大を図るための成長分野への設備投資・研究開発を中心に有効活用することを基本方針としています。

Q 最後に株主のみなさまへのメッセージをお願いします。

A 持続的な成長を目指して、全力で臨みます。

3カ年の第5次中期経営計画がスタートして1年半が経過しました。事業ポートフォリオの「組み換え」戦略は計画通りに進展しており、次の成長に向けた事業基盤は着実に整いつつあると考えています。引き続き経営者・社員一同全力で臨みますので、みなさまのご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2017年3月期通期業績予想

(百万円)

	2016年3月期(実績)	2017年3月期(期初予想: 2016年5月12日発表)	2017年3月期(修正予想: 2016年11月7日発表)	*事業別売上高(修正予想)	
				産業資材	デバイス
売上高	119,222	129,000	*120,000	49,100	49,200
営業利益	10,541	7,000	2,000	ライフィノベーション	5,300
経常利益	9,237	6,800	500	情報コミュニケーション	16,250
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,898	5,500	0	その他	150
1株当たり当期純利益(円)	160.75	128.17	0.00		

※2017年3月期より、海外子会社等の業績換算レートを期末レートから期中平均レートに変更しました。上記の2016年3月期の業績は、変更前の数値です。

トピックス

欧州における加飾・成形の生産拠点を獲得

当社の連結子会社であるNissha Europe GmbH(ニッシャヨーロッパ/ドイツ)は、2016年10月、欧州で自動車の内装部品向けにプラスチック成形品および加飾フィルムの生産・販売を手がけるSchusterグループ(シュスター/ドイツ、Schuster Kunststofftechnik GmbHならびにBack Stickers GmbHおよびその傘下にある関係会社)を買収・子会社化しました。

産業資材事業は、安定成長が期待される自動車分野を重点市場と定め、加飾工法のラインアップの充実を図るとともに、お客さまのものづくりに適応したサプライチェーンの構築を進めています。自動車のサプライチェーンは世界各地に分散しており、当社はこれまでに、東南アジアやアメリカ、メキシコに生産拠点を拡充してきました。今回の買収により、当社は自動車市場にとって重要な欧州の地に新たな生産拠点を獲得し、グローバルベースでの事業基盤を一層強化しました。

Schusterグループは、当社の既存の加飾技術と相互に補完する加飾技術を有していることに加え、生産の自動化が進んでおり、効率性に優れた生産ラインを構築しています。さらに、欧州の主要な自動車メーカーを中心とした強固な顧客基盤を有しており、産業資材事業とのシナジー創出が期待されています。



Schusterの工場(ドイツ)



自動車の内装を美しく彩るNISSHAの加飾成形品

展覧会への協賛

当社では、社会貢献基本方針に掲げている「芸術・文化の支援・振興」を目的とした活動を実施しており、その一環として、展覧会への協賛を行っています。

■「ゴッホとゴーギャン展」(2016年10月～12月)

19世紀末に活躍し、今なお世界中の人々に愛されてやまないゴッホ(1853-1890)とゴーギャン(1848-1903)。本展は、ゴッホとゴーギャンの油彩画46点と、彼らと交流し影響を与えた画家の作品17点の計63点を展示し、二人の関係性と芸術性に迫る展覧会です。東京都美術館にて2016年12月18日まで開催中です。



■特別展「平安の秘仏―滋賀・櫛野寺の大観音とみほとけたち」(2016年9月～12月)

滋賀県甲賀市に所在する天台宗の古刹、櫛野寺(らくやじ)には重要文化財に指定される平安時代の仏像が20体も伝わります。本展は、20体すべてを寺外で展示する初めての機会です。東京国立博物館にて2016年12月11日まで開催中です。

社員の活躍を伝えるWebサイトを開設

幅広い領域で活躍する当社グループの社員を紹介するWebサイト「We are Nissha People!」を、2016年8月に開設しました。

2016年4月に施行された「女性活躍推進法」に基づき、当社グループでは女性社員が活躍するための行動計画を策定し、さまざまな取り組みを実行しています。本Webサイトでも、女性管理職をはじめ出産・育児などの両立を支援する制度を活用しワーク・ライフ・バランスを実現する男性社員・女性社員などを紹介しています。

今後も、勤務地や国籍を問わず国内外で活躍する社員を紹介していきますので、ぜひご覧ください。

(<http://www.nissha.com/people>)



特集 医療機器分野にも応用される印刷技術

アメリカの医療機器メーカー Graphic Controlsグループを買収

2016年9月2日、当社はアメリカの医療機器メーカーであるGraphic Controlsグループ(以下、グラフィック・コントロールズ)を買収・子会社化しました。今回の特集では、買収の背景や狙い、グラフィック・コントロールズの事業内容についてご説明します。



新領域となる医療機器分野へ進出

当社は、2015年4月から運用を開始した3カ年の第5次中期経営計画において、「事業ポートフォリオの組み換え」を進めています。バランス経営の観点から、変化の激しいコンシューマー・エレクトロニクス分野への依存から脱却するとともに、為替変動への耐性を確保するべく海外生産比率を高めるなど、持続的かつ安定的に収益を確保することのできる新たな事業基盤の確立を急いでいます。昨年8月には高級ラベルやパッケージ向けの蒸着紙を手がけるAR Metalizingグループ(エアール・メタライジング)を買収し、印刷の近接領域で事業領域の拡大を図りました。

これに対し、当期はグラフィック・コントロールズの買収により、当社にとって新領域となる医療機器分野へ進出しました。医療機器分野は、高齢化社会の進展や予防医療の普及などを背景にグローバルベースでの成長が見込まれ、当社では、この分野での印刷技術の応用について研究・調査してきました。

印刷業から出発した医療機器メーカー

グラフィック・コントロールズは1909年に創業した歴史あるアメリカの企業です。社名の「グラフィック」が示すとおり、同社は私たちと同様に印刷業から出発し、私たちが産業資材事業やデバイス事業といった新事業を生み出してきたのと同様に、事業を多角化する過程で医療機器メーカーへと変化してきました。

現在のグラフィック・コントロールズは、北中米・欧州で病院などの医療機関向けに自社ブランド品を生産・販売するとともに、大手医療機器メーカー向けには受託生産事業を展開しています。大手医療機器メーカーは研究開発に注力し、生産を他社に委託するケースが増加しています。自社ブランド品と受託生産品の双方を手がける同社は、今後も安定した成長が期待されます。

今後当社は、グラフィック・コントロールズを足がかりに医療機器の分野で事業拡大を図ります。同社の主力製品である

Graphic Controlsグループ

創業：1909年

売上高：153百万ドル(約168億円) ※2015年12月期の実績、2016年5月に子会社化したCEAグループの売上高を含む、1ドル=110円

社員数：1,002人(2016年9月現在)

事業内容：医療機器、ビジネスメディアの生産・販売

ディスプレイ製品や手術用器具などの製品には、電極パターン形成や精密射出成形などの加工技術が活用されており、当社のコア技術(中核となる技術)との共通点が数多く見られます。中期的には両社のコア技術を融合し、生産効率の改善や新製品の開発などの取り組みを推進します。

NISSHAとグラフィック・コントロールズは、ともに印刷業で培った加工技術で多角化を進めてきました



グラフィック・コントロールズの自社製品ブランド



メディカル消耗品を開発・生産し、病院やクリニックチェーンに販売しています。取り扱い製品は、ディスプレイ製品

や医療用チャート紙などです。

※現在、日本では生産・販売していません。

受託生産品ブランド



(バイオメディカルイノベーションズ)

メディカル製品の試作・開発・生産を行い、メーカーに受託生産品を供給しています。取り扱い製品は、ウェアラブル端末や手術用器具などです。

※現在、日本では生産・販売していません。

グラフィック・コントロールズの最高経営責任者(CEO)からのメッセージ

NISSHAとグラフィック・コントロールズには多くの共通点があり、今後の事業展開について私は期待を膨らませています。2社間の強力なシナジー創出に向け、お互いが保有する技術と知見を結集し活用していきます。NISSHAがグラフィック・コントロールズの親会社となったことで私たちの成長力はますます高まるでしょう。

サム・ヘレバ
日本写真印刷株式会社 執行役員
Graphic Controls Holdings, Inc.
最高経営責任者(CEO)



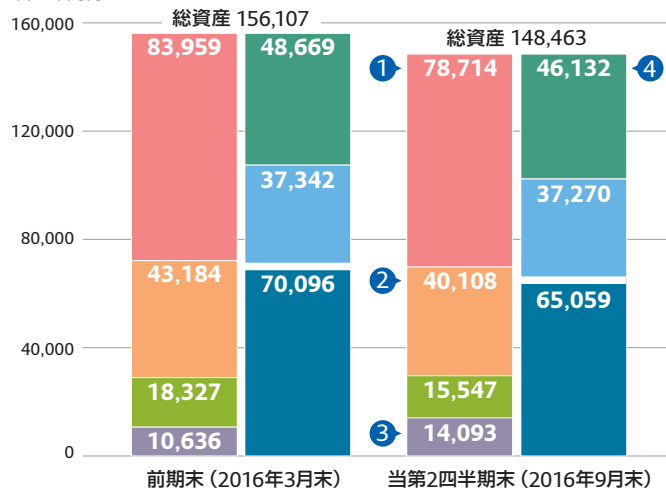
2017年3月期第2四半期(累計)業績ハイライト

※2017年3月期より、海外子会社等の業績換算レートを期末レートから期中平均レートに変更しました。P.7～8における2016年3月期の業績は、比較のため、変更を適用した数値としています。

四半期連結貸借対照表

■ 流動資産
 ■ 有形固定資産
 ■ 無形固定資産
 ■ 投資その他の資産
■ 流動負債
 ■ 固定負債
 ■ 純資産

単位：百万円



POINT

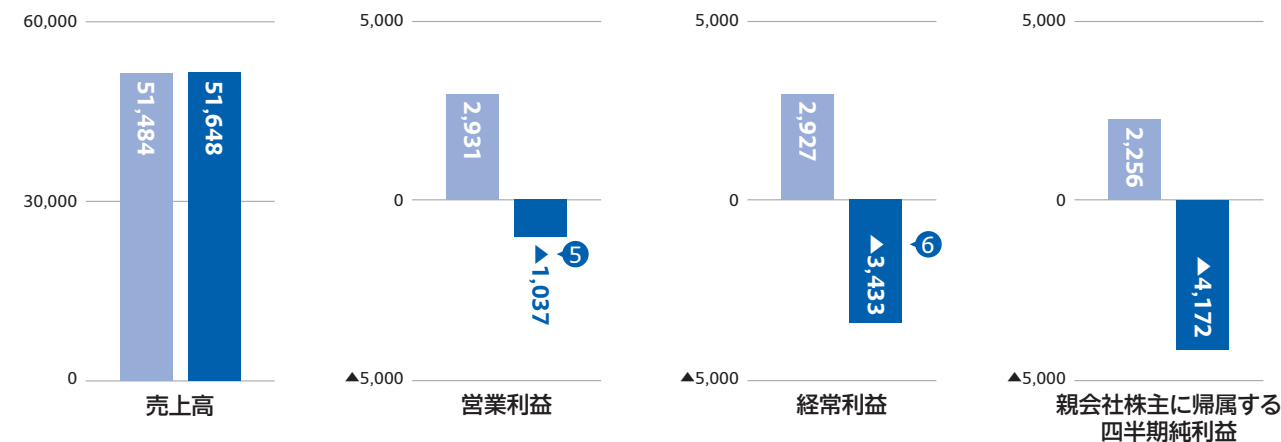
- ① 現預金・たな卸資産などの減少により、流動資産は減少しました。
- ② 建物や機械装置などの減価償却が進んだことにより有形固定資産は減少しました。
- ③ 投資有価証券の時価の変動などにより、投資その他の資産は増加しました。
- ④ 短期借入金が増加した一方、買掛金が減少したことなどにより流動負債は減少しました。
- ⑤ 円高の進展と製品需要の低迷などの影響により、当第2四半期(累計)は10億37百万円の営業損失となりました。
- ⑥ 円高に伴う為替差損23億86百万円を計上したことなどにより、34億33百万円の経常損失となりました。

四半期連結損益計算書

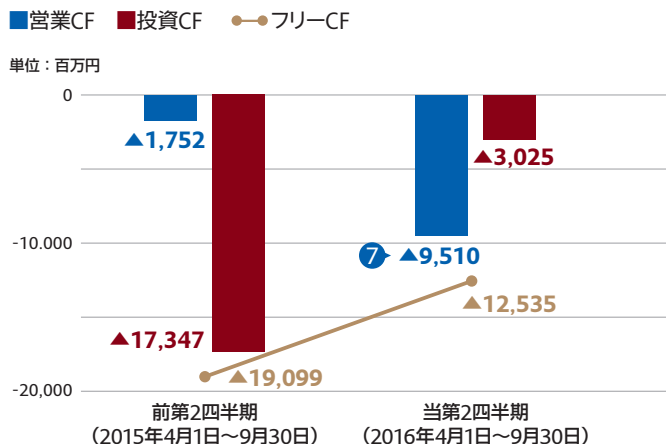
■前第2四半期: 2015年4月1日～2015年9月30日

■当第2四半期: 2016年4月1日～2016年9月30日

単位：百万円



四半期連結キャッシュ・フロー計算書



POINT

- ⑦ 円高や製品需要の低迷による業績の悪化や買掛金の減少などにより、営業活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなりました。

事業別の業績

産業資材	デバイス	情報コミュニケーション
<p>売上高 24,484百万円 ▲</p> <p>(前年同期比42.9%増)</p> <p>営業利益 554百万円 ▲</p> <p>(前年同期は12百万円の営業利益)</p> <p>主力の自動車(内装)、蒸着紙分野の需要は概ね堅調に推移しましたが、家電や携帯電話などの需要は想定を下回りました。</p>	<p>売上高 19,698百万円 ▼</p> <p>(前年同期比24.8%減)</p> <p>営業利益 ▲7百万円 ▼</p> <p>(前年同期は5,197百万円の営業利益)</p> <p>主力のタブレット端末向け静電容量方式タッチセンサーの製品需要が低調に推移しました。</p>	<p>売上高 6,627百万円 ▼</p> <p>(前年同期比11.5%減)</p> <p>営業利益 ▲142百万円 ▲</p> <p>(前年同期は▲284百万円の営業損失)</p> <p>主力の商業印刷分野で情報メディアの多様化による印刷物の減少などの影響があり、受注競争は激化しました。</p>

※ライフイノベーション事業は、当第2四半期までは事業としての立ち上げのステージにあり、業績への貢献は限定的なため、記載を省略しています。

会社概要

(2016年9月30日現在)

商号	日本写真印刷株式会社	
創業	1929年10月6日	
設立	1946年12月28日	
資本金	56億8,479万円	
社員数	単体817人、連結4,986人	
拠点数	国内(関係会社含む)14カ所 海外(現地法人、持分法適用会社含む)38カ所	

役員の状況

取締役	代表取締役社長 兼 最高経営責任者	鈴木 順也
	取締役	橋本 孝夫
	取締役	西原 勇人
	取締役	辻 良治
	取締役(社外)	久保田民雄
	取締役(社外)	小島 健司
	取締役(社外)	野原佐和子
監査役	取締役(社外)	大杉 和人
	常勤監査役	小西 均
	常勤監査役	野中 康朗
	監査役(社外)	桃尾 重明
	監査役(社外)	中野 雄介

執行役員

専務執行役員 兼 最高技術責任者	橋本 孝夫
専務執行役員 兼 最高財務責任者	西原 勇人
専務執行役員	加藤 精彦
常務執行役員 兼 最高生産責任者	柴田 卓治
常務執行役員	伊藤 壽幸
常務執行役員	井ノ上大輔
上席執行役員 兼 最高品質責任者	山口 秀則
上席執行役員 兼 最高情報責任者	青山 美民
上席執行役員	面 了明
上席執行役員	岸 圭司
執行役員	バート・デボス
執行役員	サム・ヘレバ
執行役員	三田村正幸
執行役員	久保 信夫
執行役員	西本 裕
執行役員 兼 最高戦略責任者	渡邊 亘
執行役員	礪 尚
執行役員	杉原 淳

株式の状況

(2016年9月30日現在)

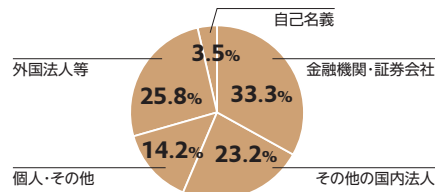
発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式の総数	45,029,493株
株主数	7,101人

大株主

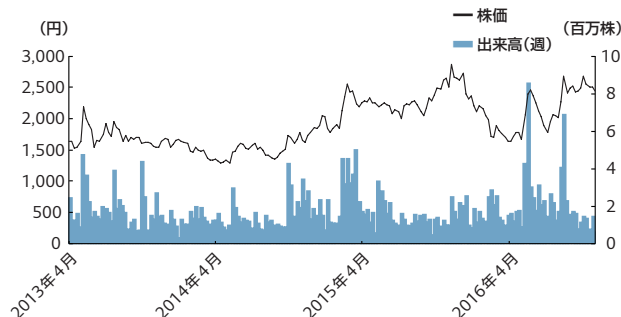
株主名	所有株数(千株)	所有比率(%)
鈴木興産株式会社	2,563	5.69
明治安田生命保険相互会社	2,341	5.20
株式会社みずほ銀行	2,076	4.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,689	3.75
株式会社京都銀行	1,442	3.20
CREDIT SUISSE SECURITIES(USA) LLC SPCL.FOR EXCL.BEN	1,181	2.62
ニッセイ共栄会	1,047	2.32
DIC株式会社	905	2.01
王子ホールディングス株式会社	894	1.98
TAIYO HANEI FUND, L.P.	872	1.93

※当社は、自己株式1,548千株を所有しており、上記大株主から除外しております

所有者別状況(保有株式数比率)



株価(2013年4月~2016年10月)



コミュニケーション

2016年6月にお送りしました「Nissha Today 第97期報告書」のアンケートでは、576人の株主さまから貴重なご回答をいただきました。多くの声をお寄せいただき誠にありがとうございました。株主さまからいただいたご意見を一部ご紹介させていただきます。

ご意見

「事業ごとの成長戦略を詳しく記載してほしい」
「事業内容をアピールするような記事があるといい」

NISSHA

Nissha Todayへのご意見ありがとうございます。紙面の都合上、本誌では事業内容の詳細をご紹介しきれませんが、Webサイトに「Nissha Report 2016」という年次レポート(統合報告書)を掲載しており、事業部長のメッセージをはじめ事業戦略や新製品などもご紹介しています。ぜひご覧ください。



■ Nissha Report(Webサイト)

<http://www.nissha.com/ir/library/nisshareport.html>

アンケートご協力のお願ひ：株主さまからいただくアンケートは、当社の経営やIR活動に対する貴重なご意見として参考にさせていただきます。引き続きご協力くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



表紙の写真

今回の表紙は、アメリカ、ニューヨーク州北西部のパッファローにあるGraphic Controlsグループの主要拠点です。写真は買収直後の2016年9月に撮影されたものですが、当社グループの一員を意味する「A Nissha Company」の表記を確認することができます。

ご意見

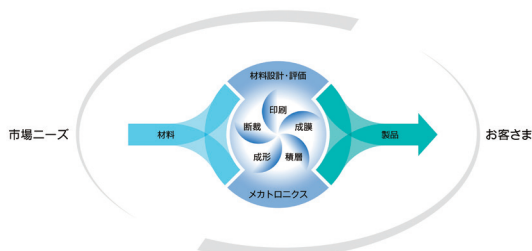
「NISSHAでは、どのように新製品開発に取り組もうとしているのかを知りたい」
「技術を向上させ、新製品・新事業を開発して成長して欲しい」

NISSHA

当社は2016年7月に、Nissha Technology Visionを制定しました。市場やお客さまのニーズを読み取りながら、保有する技術を応用して、独自の製品・サービスの開発に取り組む姿勢を示しています。Webサイトでは、NISSHAの技術の源である7つのコア技術(中核となる技術)や、最高技術責任者(CTO)のメッセージも紹介していますので、ぜひご覧ください。

■ Nissha Technology Vision(Webサイト)

<http://www.nissha.com/company/ntv.html>



株主メモ

株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
各種お手続きの お取扱窓口	お取引の証券会社等/ 特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店
特別口座管理機関 お取扱店	みずほ証券およびみずほ信託銀行 フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝を除く 9:00~17:00)
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行 (みずほ証券では取次のみとなります)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告(http://www.nissha.com) ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います
上場証券取引所	東京

IRカレンダー 事業年度: 4月1日~3月31日

第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
定時株主総会	中間配当基準日(9月30日)		定時株主総会の議決権・ 期末配当基準日 (3月31日)
4月 5月 6月	7月 8月 9月	10月 11月 12月	1月 2月 3月
通期決算発表	第1四半期決算発表	第2四半期決算発表	第3四半期決算発表

IR情報に関するお問い合わせ

日本写真印刷株式会社

経営企画部IRグループ

〒604-8551 京都市中京区壬生花井町3
tel.075-811-8111(大代表)

NISSHA

NISSHAの事業

NISSHAは印刷技術を基盤に4つの事業を展開しています。
(2016年10月以降の事業内容をご紹介します。)

■ 産業資材

産業資材は、さまざまな素材の表面を美しく彩る独自製品を展開する事業です。プラスチック製品の成形と同時に絵柄を転写するIMDやIMLは、自動車(内装)、家電、携帯電話など幅広い製品に使われています。さらに、金属やガラスなど多様な素材への加飾や機能の付与、印刷関連資材(蒸着紙)の生産・販売も行っています。

■ デバイス

デバイスは精密で機能性を追求したタッチセンサー「FineTouch」を主力製品とする事業です。「FineTouch」は、タブレット端末やスマートフォン、携帯ゲーム機などに幅広く採用されています。圧力の強弱を検知するフォースセンサーなどの新製品開発のほか、ガスセンサー、生体センサー、IoT市場向けの無線センサーネットワークなど、タッチセンサー以外の事業展開も推進しています。

■ ライフイノベーション

ライフイノベーションは、医療機器やその関連分野において、高品質で付加価値の高い製品を提供し、世界中の人々の健康で豊かなライフスタイルへの貢献を目指す事業です。現在は欧米市場においてGraphic Controlsグループ(当社子会社)の自社ブランド品を生産・販売するとともに、大手医療機器メーカー向けの受託生産事業を展開しています。

■ 情報コミュニケーション

情報コミュニケーションは、出版印刷、商業印刷、セールスプロモーション、Webソリューション、デジタルアーカイブなど、さまざまな製品・サービスを提供し、お客さま企業のマーケティング戦略や広告宣伝・販売促進などのコミュニケーション戦略全般をサポートしています。

ご注意

このNissha Todayに掲載されている情報のうち業績の目標、計画、見通し、戦略、その他過去の事実ではない情報については、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の経営者が合理的と判断したため、リスクや不確実性を含みます。実際の業績は、経済動向、市場需要、為替の変動などのさまざまな要因によって大きく変わる可能性がありますことをご承知おきください。このNissha Todayに掲載されている業績に関する記述は、特に注記がない限り、全て連結ベースとなっています。

